

マルコによる福音書11:1-11

○文脈的位置付け

ガリラヤでの宣教活動を経て、いよいよエルサレムにおける受難物語へと入る決定的転換点となる。ここから物語はエルサレム神殿を舞台とし、受難物語へと加速していく。エルサレム入城は四福音書全てに記されている（マタイによる福音書21章、マルコによる福音書11章、ルカによる福音書19章、ヨハネによる福音書12章）。細かい描き方には違いがあるものの、「ろばに乗ってエルサレムに入るイエス」という出来事は共通している。このことは、この出来事が初代教会にとって非常に重要な意味を持っていたことを示している。

○各節の積義

①状況設定(1節)

1節。「一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山のふもとにあるベトファゲとベタニアにさしかかったとき」は、イエスのエルサレムにおける務めの開始を示す。「エルサレム」はイスラエルにおける繁栄と権力の象徴であり、当時はヘロデ政権とそれを統治するローマ帝国の権力と、それに抑圧されている民の呻きが混在していた。そのため、必然的に民の中でメシア待望が高まっていたと思われる。

「ベトファゲ」はオリーブ山の西側にあり、「ベタニヤ」は東南の方にある町。ベタニヤはエルサレムに近いことから過越祭などの祭りの時には都に入りきれない巡礼者たちが滞在する場所ともなっており、エルサレムと密接な関係を持つ村であった。

②子ロバの獲得(2-6節)

2節。イエスが二人の弟子に対して命じられる。「向こうの村に行きなさい」この村はベトファゲともベトザタともとれる。そして「だれも乗ったことのない子ろば」を連れてくるように命じられる。「だれも乗ったことのない」動物は聖別され、きよい目的のために用いられていた。(民数記19:2)

また、イエスはエルサレム入場の乗り物として「子ろば」を指定する。当時、勝利した王や軍事的支配者は馬に乗るのが一般的であった。馬は軍事力と権威の象徴であった。一方でろばは軍事的象徴ではなく、謙遜や平和を象徴する動物として用いられている。そのため、イエスのエルサレム入場は平和をもたらす王の到来を暗示している。それはゼカリヤ書9:9で予言されていた通りである。

「見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者

高ぶることなく、ろばに乗って来る

雌ろばの子であるろばに乗って。」

3節。主イエスが弟子たちの遭遇する問題への対策として語るべき言葉を授けたことを語っている。「主がお入り用なのです。」マルコにおいてイエスが自分自身に対して「主」という称号を用いられているのはこの箇所のみである。そのためこの表現は、受難へと向かわれる直前に、イエスがご自身の権威と主権を静かに示している重要な箇所であると理解できる。

4-6節。イエスが予見して弟子たちに語った通りのことが起きる。この出来事は、イエスの言葉が確かであり、すべてがそのご意志とご計画のうちに進んでいることを示している。

③エルサレム入城と歓喜の声(7-10節)

7-8節。いよいよイエスが子ろばに乗り、エルサレムへ入城する。子ろばにはくわがなかったので、上着をくらの代わりに用いた。「多くの人が自分の服を道に敷いたのは、王を迎える際の尊敬の意思を表す象徴的行為である。旧約聖書においても、イエフが王として油注がれた際に、人々が上着を脱いで足元に敷いたことが記されている。(列王記下9:13)

また、他の人々は「野原から葉のついた枝を切って道に敷いた」野原から切り取った草木を道に敷く行為は、王を迎える際の儀礼である。(レビ記23:40)こうした二つの象徴的な行為を通して、主イエスの入城の準備が整った。

9-10節。民衆は入城する様子を見て、前に行く者も後ろに従う者も叫んだ「ホサナ、主の名によって来られる方に祝福があるように。」ホサナ *ὡσαννά* はヘブライ語の *הוֹשִׁיעַ נָא* (ホーシーアー・ナー) に由来しており、原意は「どうか救ってください」という意味。また、「主の名によって来られる方に祝福があるように」は詩編118編「祝福あれ、主の御名によって来る人に」からの引用句。従ってこの言葉は神に対して救いを願い求める祈りであると同時に、主の名によって来られる方、すなわち旧約時代から期待されてきたメシアを迎える歓呼の叫びであったと言える。

また、続けて群衆は「我らの父ダビデの来るべき国に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。」と叫ぶ。ダビデの来るべき国(*βασιλεία*)という表現には、政治的な解放と神の支配の回復が今すぐに到来することを願う民の思いが示されている。人々はイエスの運命をまだ理解せず、彼に従う者たちにとってのみ勝利が来ることを求めている。従って、人々のイエス理解は、彼がメシアであるとの希望を持っている点では正しいが、イエスがすぐにでもエルサレムの繁栄を回復し、政治的な解放をもたらしてくれるだろうという誤った期待を持っている。そしてまた、この群衆がのちにイエスを「十字架につけろ」と叫ぶようになることは、彼らの期待が自分たちの思い通りにかなえられなかったとき、称賛は容易に拒絶へと変わり得る人間の弱さを示している。

④神殿視察と退去(11節)

共観福音書の並行記事(マタイ21:1-17、ルカ19:28-46)とは違って、マルコではイエスは神殿から商人や両替人たちをすぐに追い出すことはしない。神殿に入ると、ただ見て回った後に弟子たちを連れてベタニアへ行かれる。このイエスの沈黙は何を表しているのか。それは神殿の現状を見極めたうえで、神の時に従って行動されるお方であることを示しているのだろう。また同時に、これから下される神殿へのさばきの厳粛さと必然性を静かに予告しているのだろう。

○マルコ福音書の特徴

マルコによる福音書のエルサレム入城の特徴は、栄光と受難が同時に描かれている点にある。群衆はメシアとしてイエスを歓呼して迎えるが、その理解は政治的解放への期待にとどまっている。一方でイエスは、子ろばの準備を通してご自身の主権を示しつつ、静かに受難へと歩みを進められる。

特にマルコ独自の記事である11節の神殿視察と退去は重要である。イエスはすぐには行動せず、ただ見て回って去られる。この沈黙は、群衆の熱狂とは対照的に、神の時に従って行動される主の厳粛さを示している。マルコは、この入城を勝利の場面というよりも、十字架へ向かう王の歩みの始まりとして描いている。

○翻訳の違い

・教会共同訳聖書

1:一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山に面したベトファゲとベタニアにさしかかったとき、イエスは二人の弟子を使いに出そうとして、2:言われた。「向こうの村へ行きなさい。村に入るとすぐ、まだ誰も乗ったことのないろばのつないであるのが見つかる。それをほどこいて、連れて来なさい。3:もし、誰かが、『なぜ、そんなことをするのか』と言ったら、『主がお入り用なのです。すぐここにお返しになります』と言いなさい。」4:二人は、出かけて行くと、表通りの戸口にろばがつかないであるのを見つけたので、それをほどこいた。5:すると、そこに居合わせた人々が、「そのろばをほどこいてどうするのか」と言った。6:二人が、イエスの言われたとおりに話すと、許してくれた。7:二人がろばをイエスのところに連れて来て、その上に自分の上着を掛けると、イエスはそれにお乗りになった。8:多くの人が自分の上着を道に敷き、また、ほかの人々は野原から葉の付いた枝を切って来て敷いた。9:そして、前を行く者も後に従う者も叫んだ。／「ホサナ。／主の名によって来られる方に／祝福があるように。10:我らの父ダビデの来るべき国に／祝福があるように。／いと高き所にホサナ。」11:こうして、イエスはエルサレムに着いて、神殿の境内に入られた。そして、周囲を一瞥した後、すでに夕方になったので、十二人を連れてベタニアへ出て行かれた。

・口語訳聖書

1:さて、彼らがエルサレムに近づき、オリブの山に沿ったベテパゲ、ベタニヤの附近にきた時、イエスはふたりの弟子をつかわして言われた、2:「むこうの村へ行きなさい。そこにはいるとすぐ、まだだれも乗ったことのないろばの子が、つかないであるのを見るであろう。それを解いて引いてきなさい。3:もし、だれかがあなたがたに、なぜそんな事をするのかと言ったなら、主がお入り用なのです。またすぐ、ここへ返していただきますと、言いなさい。」4:そこで、彼らは出かけて行き、そして表通りの戸口に、ろばの子がつかないであるのを見たので、それを解いた。5:すると、そこに立っていた人々が言った、「そのろばの子を解いて、どうするのか」。6:弟子たちは、イエスが言われたとおりに彼らに話したので、ゆるしてくれた。7:そこで、弟子たちは、そのろばの子をイエスのところに引いてきて、自分たちの上着をそれに投げかけると、イエスはその上にお乗りになった。8:すると多くの人々は自分たちの上着を道に敷き、また他の人々は葉のついた枝を野原から切ってきて敷いた。9:そして、前に行く者も、あとに従う者も共に叫びつづけた、／「ホサナ、／主の御名によってきたる者に、祝福あれ。10:今きたる、われらの父ダビデの国に、祝福あれ。いと高き所に、ホサナ」。11:こうしてイエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてのものを見まわった後、もはや時もおそくなっていたので、十二弟子と共にベタニヤに出て行かれた。

・新改訳聖書

1:さて、彼らがエルサレムの近くに来て、オリーブ山のふもとのベテパゲとベタニヤに近づいたとき、イエスはふたりの弟子を使いに出して、2:言われた。「向こうの村へ行きなさい。村にはいるとすぐ、まだだれも乗ったことのない、ろばの子が、つかないであるのに気がつくでしょう。それをほどこいて、引いて来なさい。3:もし、『なぜそんなことをするのか。』と言う人があつたら、『主がお入り用なのです。すぐに、またここに送り返されます。』と言いなさい。」4:そこで、出かけて見ると、表通りにある家の戸口に、ろばの子が一匹つかないであつたので、それをほどこいた。5:すると、そこに立っていた何人かが言った。「ろばの子をほどこいたりして、どうするのですか。」6:弟子たちが、イエスの言われたとおりに話すと、彼らは許してくれた。7:そこで、ろばの子をイエスのところへ引いて行って、自分たちの上着をその上に掛けた。イエスはそれに乗られた。8:すると、多くの人が、自分たちの上着を道に敷き、またほかの人々は、木の葉を枝ごと野原から切って来て、道に敷いた。9:そして、前に行く者も、あとに従う者も、叫んでいた。「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。10:祝福あれ。いま来た、われらの父ダビデの国に。ホサナ。いと高き所に。」11:こうして、イエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべてを見て回った後、時間ももうおそかつたので、十二弟子といっしょにベタニヤに出て行かれた。